

報告

第44回日韓技術士国際会議に参加して

永田 泰浩

1. はじめに

2014年10月19日から21日に、愛媛県松山市において第44回日韓技術士国際会議が開催された。開催期間中は天候も良く、晩餐会の開催された「大和屋本店」が道後温泉にあったこともあり、いろいろな意味で充実した会議となった。会議は10月19日が第8回日韓女性技術士交流会および日韓技術士親善サッカー大会。20日が本会議、5つの分科会と晩餐会。21日が研修視察という構成であった。

2. 本会議

第44回を迎える日韓技術士国際会議のテーマは「日韓両国に影響する危機管理対策と技術士の役割」であった。「ひめぎんホール」で開催された本会議では、環境部門の室中善博技術士が「日本が直面する危機とその対応における技術士の役割」と題して基調講演を行った。様々な危機の位置づけを整理した上で、危機に対する国家の対策とその上での技術士の役割についての講演をされた。韓国側からも、金在權技術士が大型旅客船の事故を例として、危機管理と技術士のあり方についての講演をされた。



図-1 「ひめぎんホール」で開催された本会議

3. 分科会

今回の分科会では、北海道から1名の技術士が発表を行った。今野徹技術士である（現在、東京に出向中）。彼は第1分科会（環境・資源・Energy・食料）の最後の発表者であり、「食品の安全と安心とrisk communication～東京電力福島第一原発事故を例に～」という題名で発表を行った。同郷の技術士の発表ということもあり、私も期待に満ちて第1分科会に参加した。

正直なところ非常に残念な発表であった。



図-2 分科会で発表を行う今野徹技術士

分科会は6人の発表者から構成されており、その発表者に対して13時から17時という長時間が確保されていたが、最後の発表者であった今野技術士に用意された発表時間はとても短かった。入念に準備された発表資料に沿って発表していた彼が、突然の「あと5分」という言葉とともに、発表を辞めねばならなかった。何が起こったのかわからなかった。

結局はプログラムには掲載されていない技術士の発表が急遽組まれ、その方の発表時間を用意するため、前の発表者の発表時間を一気に減らしたということであったと思う。

今野技術士は準備した発表用パワーポイントの半分以上を一気に飛ばして、発表を終えた。発表後、彼にかける言葉もなかった。彼が何日も前から発表に向けて入念に資料を作り上げて準備をしていたことを、彼の facebook を見て知っていた。

今野技術士の後に発表された技術士云々ではなく、突然のプログラム変更に対し、risk communication が関係者間でしっかりと実施されなかったことが非常に残念であった。

4. 日韓技術士親善サッカー大会

本会議や分科会の前日に日韓技術士親善サッカー大会が開催された。試合会場はご当地のサッカーチーム愛媛 FC の練習場である「愛フィールド梅津寺」。人工芝のグラウンドであるが、プロ選手が練習で使用しているグラウンドというだけで、到着した「技術士ブルー」の選手たちのテンションは上がった。

例年のサッカー大会ではエンジョイマッチが組まれるが、今回はグラウンドの関係などもあり、25分ハーフの本気マッチ 1 本勝負であった。今野技術士はもちろん、幸いにして私も出場させていただいた。実は 1ヶ月ぐらい前から会社の前の公園で、昼休みに毎日 30 分ぐらいひたすらボールを蹴っていた。期間限定で楕円球を裏切り丸い球に魂を売った。

結果は 3-2 で日本代表！技術士ブルーの勝利！

努力と裏切りの球モノと言いたところであったが、当の本人は全く役にたっていない。1ヶ月の昼練でうまくなるはずがない。それでも勝利の後のお酒はととても美味しかった。来年、2ヶ月前からやれば、勝利の美酒も 2 倍美味しいはず！



図-3 試合直前の「技術士ブルー」の戦士たち

5. 晩餐会

本会議や分科会の行われた 10 月 20 日の夜に道後温泉において盛大な晩餐会が催された。もしかすると、この晩餐会が最も日韓の交流が進む場かもしれない。サッカー大会から 1 日空けて再開した両チームの選手には、No-Side の精神が満ち溢れていた。

優勝した日本チーム山中キャプテンへの優勝カップの授与あたりから路線が一気に体育会系に。グラウンドで戦った面々が、国境も言葉も関係なく集まる。握手→ハグ→優勝カップでの乾杯を繰り返し、両国サッカー集団のテンションは最高潮へ！そして……うるさ過ぎると本部の方に怒られました(反省)。



図-4 晩餐会での一コマ……この数分後に怒られた

6. おわりに

隙間の時間を利用して、松山市内を散歩しました。街の真ん中に昔からのお城があり、道には「いよてつ」(市電)がコトコトと走っている。人は穏やかで暖かそうな人ばかり。「にっぽん」って感じがして、とても良い町でした。食べ物も懐かしの昭和という感じで美味しく、特に鍋焼きうどんが美味でした。

札幌も市電が走っていますが、いよてつは全然本数が違いました。待ち時間がない。どんどん来る！

市電に乗ろうという意識より前に、市電がないと成り立たない街になっているのが魅力的でした。

永田 泰浩 (ながた やすひろ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

(一社)北海道開発技術センター

